

令和3年度第1回 きよみ野地区地域支え合い会議 議事録

日 時：令和3年11月4日（木）

午後3時30から

場 所：おあしすミーティングルーム4

＜参加者＞

きよみ野西自治会辻田会長、きよみ野東自治会妹尾副会長

きよみ野西地区：田中民生委員・伏見民生委員・伊勢谷民生委員

きよみ野東地区：竹林民生員・成田民生員・伊東民生委員

石井元民生委員

長寿支援課：浅子、金澤

生活支援コーディネーター：浦上

第一地域包括支援センター：石岡・大友

社会福祉協議会：日高・谷口

計16名

1 開 会

2 自己紹介

3 議題

1 経緯の説明（今までの地域支え合い会議にて出た課題等について）

- ・きよみ野地区の民生委員（OB 含む）市、社会福祉協議会、地域包括支援センターとで実施してきた。ウッドパークきよみの集会所を利用した居場所づくりの検討や、要支援者名簿に基づき高齢者の見守り優先順位などを検討してきたが、民生委員だけでは解決は難しかった。
- ・きよみ野地区は東西合わせて2,000世帯と大きな規模となるため、地域の温度差が大きくある。地域の課題を考えるにあたって自治会の協力が必要となる。
⇒地域課題について検討するにあたり、自治会と継続して考えられる場がない。

2 自治会の現状について（東西自治会会长・副会長より）

- ・自治会役員の減少（業務負担の重荷、高齢化、子育て世帯）や、年に1度役員が会長も含め50人入れ替えとなることから新たな取り組みを浸透させることが困難である。
- ・自治会の加入率がきよみ野は高い地域ではあるが、事業としては前年度の事業計画を行い、報告をするだけなので発展が見られない。また、自治会員は会費を支払っており、会員でない人に対しても同じ扱いをすることに疑問を感じる。
- ・防犯、防災についての意識や自治会役員の任期について、事業を行う場所や、行政とのつながりについて検討する必要があると思われる。自治会の中に地域支援部があるが、何をしていいかわからないから機能はしない。また、老人会

にも「明日のきよみ野を考える会」という会がある。西のホームページに限らず、あらゆるところを見る化した方が良い。

- ・マンションなどは管理組合役員と自治会役員の時期が重なってしまうと2重で役割負担がかかるため高齢になると脱退してしまう人が多い。
- ・支え合い会議の終着点、テーマは何なのか。自治会役員へ伝えるとしても議題が不透明な部分が多く説明が難しい。

⇒地域の支え合いのしくみ作りについて話し合う場から住民主体で検討していくことが目的となっている。地域の特性を活かしたものでメンバー、活動体制を考えていくことを想定している。

- ・自治会として総会などで諮って活動をしていくことは時間もかかり機動力を持って活動できる組織が必要となる。自治会との連携の仕方には検討が必要。

⇒東自治会では無記名で地域に関するアンケートを出してもらっているが、解決策の検討までは行えていない。

(田中民生委員より)

- ・地域の為に自治会がある。現在の自治会は次年度の計画を立ててそれをやるだけになっていて、今後は長期的な展望を考えていく必要がある。自治会から参加してもらう意味はあるが課題も大きい。丁目毎などもう少し単位を小さくし、マンションはマンション単位にするなどして議論する場が必要であるが、この会議と並行で自治会の改革が必要である。

3 今後の支え合い会議の開催について

- ・住民には、退職をむかえたこと等を機に地域に貢献できる活動をしたいという想いを持った人はたくさんいる。何かやってみたい人へのきっかけ作りの場を設け、想いのある人たちが考えられる場所を作ることが必要ではないか。（人材発掘の場）
⇒自治会役員の中でも温度差があり、自治会の運営自体にもさまざまな課題があげられる中でその問題がクリアにならないと支え合い会議を立ち上げられないというのでは前に進まない。同時並行で住民向けに学習会などを開催してベクトルを合わせられる組織体制を検討していくのはどうか。

- ・大規模な地域で、マンションと戸建てが入り組んでいる中で「顔の見えない地域」となっていることが課題となる。コミュニティの単位をグループ化するなど地域を細分化し、まずは「顔の見える地域」とする組織作りを行う。

⇒学習会の中で想いのある少人数からまずはプラットフォームの役割となる組織を立ち上げる必要がある。次回の開催時に中曾根小学校区向けに実施した「地域づくりフォーラム」の資料を基に、きよみ野地区バージョンの学習会を検討する。

- ・自治会総会に「地域支え合い会議」を周知する際には、地域のキーパーソンとなる（サロン・体操リーダー・老人会等）人たちにも参加をしてもらい、次年度計画への追加を検討してはどうか。